

若手教員海外研修支援事業報告書（地域貢献との関わり）

氏 名	グローバルセンター 講師 市島 佑起子
研修期間	平成30年8月26日～平成31年3月22日（鹿児島発～鹿児島着）
1. 教育研究機関	
国名及び滞在地名： <u>英 国</u> <u>ロンドン</u> 市 機 関 名： <u>ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院 (SOAS University of London)</u>	
2. 研修報告	
(1) 研修題目：日本語学習者の留学による言語能力評価ギャップ解消に向けた調査研究	
(2) 研修の成果	
<p>近年、学生の国際的流動性が世界規模で飛躍的に高まり、優秀な留学生の獲得は先進国諸国の課題となっています。研修先の英国では高等教育機関で学ぶ外国人留学生の割合が約3割に達しており、多様な言語的背景を持つ学生が世界中から集まる様子を目の当たりにしました。国や言語の枠を超えて移動する際、重要視されるものの一つが言語能力です。圧倒的な国際通用性を持つ英語に限らず、個人が有する言語の運用能力を適切に評価し表すことは、世界規模の人的交流を強く後押しする力になると考えられます。欧州の高等教育機関では、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages、ヨーロッパ言語共通参照枠) というガイドラインが言語能力を表す枠組みの一つとして、ある種の強制力を持って受入れられており、言語を学ぶ多くの学生がこの枠組みを参照した能力評価を受けています。近年、CEFRは欧州域外でも様々な言語の能力評価のための枠組みとして影響力を強めており、欧州高等教育機関における日本語教育プログラムでのCEFR活用の状況を知ることは、日本での外国人日本語学習者に対する日本語能力評価、教育デザインへの知見提供につながると考えました。本研修中、英仏二か国の大学で日本語担当教員に実施した調査では、機関・コース・教員等の違いによって、日本語能力評価へのCEFRの参照程度や方法が大きく異なる事が明らかになりました。国内外の教育システムや理念の違いに注意を払いつつ今回の結果を整理し、留学生を対象とした日本語教育プログラムの改善につなげる事で、直接的には外国人留学生への教育の質保証、教育効果の向上に貢献できます。この事は、留学生が安心して学べる国際的通用性の高い本学の教育環境作りに寄与し、優秀な留学生を呼び込む好循環を作りだす事につながります。間接的には、留学生と日本人学生との相互学習機会が拡大し、本学の国際感覚を養う教育環境が充実することで、地域のグローバル化・活性化を担う人材を育てるための土壌醸成が期待できます。さらに視点を変えれば、本学が呼び込んだ優秀な留学生が鹿児島のよき理解者となり、地域の人々と共に暮らす事は、その事自体が地域のグローバル化に貢献しうると考えます。本学が地域グローバル化・活性化の中核的拠点として益々その役割を発揮できる様、今後の研究教育活動に邁進したいと考えております。</p> <p>Brexitに揺れる多国籍都市ロンドンで、外国人留学生が半数以上を占めるSOASに所属し、多様な市民と隣り合って暮らした事は、声高に叫ばれる「グローバル化」の意味や意義について再考するまたとない機会でもありました。貴重な機会を下さった関係者皆様に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。</p>	